

「ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト」

読書活動支援者育成事業 地区別研修

主催：福島県教育委員会

読書ボランティア研修会

目的：学校や図書館で活躍する読書推進ボランティアの専門的な知識や技能の向上を図る。

実施日：平成28年9月15日（木） 10：20～16：00

場所：福島県立図書館（福島市森合字西養山1）

参加者：99名

第1部

10:30～12:00

講話「子どもと本のかけ橋に」

JPIC読書アドバイザー

児玉ひろ美氏

1 はじめに

- 本を読むことが心豊かな子どもの育成につながるので、子どもたちに本を好きになってほしい。本は、不思議だな、面白いなといった感じる心と、なぜかな、どうしてだろうといった考える力を育てる。
- ロングセラー本は、世代を超えて読み継がれている。繰り返し読まれるには魅力がある。時代が変わっても子どもの本質は変わらない。



2 読書に関する2つの調査 読書に関する2つの調査から見えること

- 学校図書館読書調査の毎日新聞発表記事の見出しから時代背景が読み取れる。2010年「本選び見目重視、読む習慣広く浸透」読み聞かせや朝読の効果だと考えられる。2014年「進む雑誌離れ、広がるスマホ」スマホが普及し、調べることもスマホを使うことが多くなってきている。
- 高校生の読書に関する意識等調査から、本を読まない生徒が多くなってきている。よい本に出会ってなく、読書に楽しみを見いだせないと思われる。高校生にも、読み聞かせやブックトークが必要である。

3 読み聞かせから読書へ

- ひとり読みへの移行は絵本だけでは難しい。絵本は絵の情報と文の情報が一致してひとつのお話なので、文字を追うことだけに一生懸命な子どもにとっては、絵を見て文とあわせるという能力がまだないので、良質な縦書きの幼年童話を与えたい。
- 子どもが読むに値する本を身近に置きたい。本を積んでおくだけでもよい。手の届くところに本がある環境をつくりたい。

4 モチベーションを持続するために

- 子どもと本に対するあなたの信念をかたくもちなさい。どのようなときにも、あなたの仕事は、やり甲斐のあるものであり、たのしみとインスピレーションのもとなのです。(アイリーン・コルウェル、1976)

【参加者からの声】

- 子どもたちが読書する意味は「感じる心と考える力」を培うこと。そしてこの2つが相互作用をもたらすというお話しに、私のボランティアには「考える力」を補強したいと思った。読書環境が変貌甚だしい昨今だが、柔軟な心をもって子どもたちを取りまく情報や子どもたちの変化にアンテナを常に張って、生活していくことが必要だと思った。がしかし「子どもの本質だけは変わっていない」ということは肝に銘じて今後も絵本や読書を通して心豊かな大人への成長のお手伝いできるようボランティアをこつこつ続けていきたいと再確認できた。

第2部

13:00~14:30

講義「子どもと本をつなぐブックトーク」

東京子ども図書館事務局長

清水 千秋 氏

1 ブックトークとは

- ・集団向けのフォーマルなブックトークと、個人向けのインフォーマルなブックトークとがある。基本は、あるひとつのテーマにそって、数冊の本を、順序よく、じょうずに紹介することである。

2 ブックトークの目的

- ・本に対する興味を起こさせること、著者や関連分野についての興味をもたせることである。

3 ミニ・ブックトーク（小学2年生対象）（実演）

- ・おはなし・腰折れすずめ（日本の昔話）、『九月姫とウグイス』

4 ブックトーク 「これ知ってる？—めずらしい道具あれこれ—」（実演）

- ・『スパイ事典』、『地下の洞穴の冒険』、『地下の洞穴の冒険／ふたたび洞穴へ』、『地球のてっぺんに立つ！エベレスト』、『おちゃのじかん』、『昔のくらしの道具事典 新版』、『アリになったカメラマン—昆虫写真家・栗林慧』、おはなし・まぬけなトッケビ（韓国の昔話）

5 ブックトークをつくってみたくなったら……

- ・テーマは子どもをひきつける重要な鍵である。本は、自分の好きな本、手にとられにくい本を選ぶ。バラエティに配慮する。冊数は7~8冊くらいで、時間は30~40分ほどが目安。
- ・ブックリストを活用するとよい。『絵本の庭へ』（児童図書館基本蔵書目録 1）東京子ども図書館、『物語の森へ』2017年刊行予定、『子どもの本のリスト』東京子ども図書館、『今、この本を、子どもの手に』東京子ども図書館
- ・子どもと打ち解ける工夫をするとよい。つながいを大切にしたい。ブックトークを首飾りにたとえると、テーマは首飾りのビーズを貫く糸。その糸がしっかり通っていると感じられるブックトークを心がけたい。『ブックトークのきほん—21の事例つき』東京子ども図書館より。お話、朗読、絵や図を活用するとよい。
- ・その場その場での対応ではなく、シナリオを書いてみるとよい。
- ・本番までに以下の準備をしたい。引用箇所や、絵や図などを見せる箇所に、目立たないように付箋を貼る。声の出し方、本の持ち方などを練習する。決められた時間を守る。配布用のプログラムをつくる。
- ・複本を用意する。



【参加者からの声】

- ・ブックトークとはどんなことかよく分かった。読み聞かせとは違う、本の紹介の仕方がよく分かった。子どもを本好きにするためのスキルが参考になった。お話を読むのではなく、語ることでまた別のインパクトがあると思った。
- ・ブックトークというのを初めて知りましたが、このような形で読書への入口の手助けができるのだなぁと思いました。難しそうですが、少しずつチャレンジしてみたいです。
- ・ブックトークは初めて聞きました。なかなか本格的にはできないかもしれませんが、読み聞かせ後、「こんな本もあるよ」と紹介できるように、挑戦したいです。もっと本も読みたいです。

第3部

14:40~15:50

講義・演習「おはなし会を楽しむために」

「まつお文庫」主宰

松尾 福子 氏

1 文庫活動について

- ・昨年10月、3000回目の文庫の日を達成した。スタートは昭和52年。今年で39年。以前は100人の子ども達が来ることもあった。現在は20人ぐらい。40周年まではがんばりたい。



2 文庫でのおはなし会

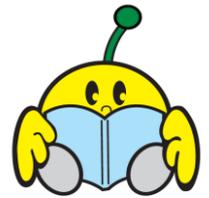
- ・毎回30分のおはなし会を行っている。スタッフ6人。
- ・今月の詩でスタート。これは27年やっている。

※ 今年度のおはなし会より、本の読み聞かせを行いながら、子ども達の様子などを説明。

- ・詩「あめふり」あめひでき（工藤直子）、絵本『りゅうになりそこねたハブ』沖縄民話 儀間比呂志等のミニブックトーク。

3 詩を楽しむ

- ・まどみちおの作品紹介。「おならはえらい」、「はひふへほは」他。
- ・谷川俊太郎の作品紹介。「ゆっくりゆきちゃん」、「かえるのぴょん」。
- ・みずかみかずよの作品紹介。「さびしがりやの秋だから」他。
- ・工藤直子の作品紹介。「かんがえごと」（こねすみしゅん）他。



4 おはなしを楽しむ（実演）

- ・「あくびがでるほどおもしろい話」（松岡享子）
- ・「あのつく話」（松岡享子）
- ・「くらいくらい」（伝承の詩）
- ・「ちいちゃいちいちゃい」（イギリスの昔話）



5 わらべうた・手遊びを楽しむ

- ・もどっておいでポールを実演。参加者もいっしょに。
- ・123の2の4の5、でんでらりゅうばを実演。

6 絵本のよみきかせ

- ・『さくら』 長谷川摂子／矢間芳子 福音館書店 の読み聞かせ。

【参加者からの声】

- ・松尾先生たくさんの工夫でおはなし会を盛り上げることができるんですね。パフォーマンスブラボー！！努力が足りない自分を反省し今後の糧にしたい。
- ・秋から冬にかけてお話し会があるので、詩や手遊びはとても参考になりました。耳からだけで言葉を聞くと、とても引き込まれました。私も挑戦して、子どもたちにも体験して楽しんでもらいたいです。
- ・自分の行っている活動と比べ、レベルが高く、どこまで近づけるか…。少しずつ、レベルUPできたらと思います。少々めげましたが、力もいただきました。現状にとどまらず、福島県全体の未来の子どもたちのために、できることを続けていきたいと思います。